

メールマガジン 2022年2月号

空気は冷たく寒い毎日ですが、季節の移り変わりを感じています。冬至の頃から比べると陽が2時間も長くなり、それだけで心は踊ります。毎年繰り返し叫んでいますが、冬の訪れが早いドイツはおよそ半年ほど暗闇のような中に閉じ込められているので、解放された喜びを伝えずにはられないのです。この時期の合言葉「陽が長くなったわね〜！」と、春の訪れを喜び合います。小鳥のさえずりも日々大きく高らかに響いています。太陽が出て明るいという事は大きな力と希望です。

更に嬉しいお知らせです……。滞在許可証・ビザがおりました！皆様のお祈りに感謝いたします。私たちが考えていた二つの大きな懸念材料も何ら問題がなかったようで、正に案ずるよりも産むが易しでした。主の御業です！ケルンの地に立てられている日本の小さな教会が、ドイツで証しできている、と確信を持つことができました。しかし、決して思い上がることなく謙遜に受け止め、改めて真摯に主の御声にお従いしていかなければと思われています。傲慢にならないようにお祈りをお願いいたします。

現在、ドイツでは新型コロナウイルスの新規感染は、一日に20万人以上と拡大していますが、拡大防止のための厳しい規制は解かれました。これまでワクチン未接種の方は、食料品とドラッグストア以外、飲食店やデパート等のあらゆる所が利用できずでしたが、その制限も撤廃されました。いよいよwithコロナの新しい時代に入ってきたようです。勿論、公共の場では引き続き医療用のマスク着用は必須ですが。このような世の中の大きな動きを見ながら、対面による会堂での礼拝や家庭集会を徐々に再開していく予定です。色々な変化に振り廻されることも多々ありますが、主を仰ぎ見ながら知恵を頂いて前進して参りたいです。

皆様におかれましても主に望みをおいて麗しい春をお迎えすることができますように、お祈り申し上げます。



18時30分頃、我が家のベランダからの風景。完全に陽が沈む直前の幻想的な青色です。ドイツの家のあかりは、白色灯を殆ど使用しないので、この青色にマッチしているように思います。

「Schneeglöckchen・シュネーグロックヘン」

春を告げる花で、希望・慰めという花言葉です。道端のあちこちにみかけるようになると、長かった冬もおしまいという嬉しいしるし。正に希望のしるし!!



40年振り!?!ラムレーズンのケーキを作りました。

こちらではお誕生者が親しい方をご招待をしてお祝いします。これまで行ったことがないので、今年はトライしてみました。

